

苦境の中チームの総力を結集 抜群のタイヤマネージメントで8位入賞

D'station Racing
PORSCHE
911 GT3 R



AUTOBACS SUPER GT SERIES Round.7 Autopolis

October 20 - 21 2018

今季ここまで6戦中4回の入賞を果たし、チャンピオンの可能性を残している D'station Racing。タイトル争いに踏みとどまり、得意な最終戦もてぎを迎えるためにも、迎えた第7戦オートポリスは重要なラウンドと言えた。ただこのコースは、ポルシェ 911 GT3 R にとっては決して得意なレイアウトではない。そんな中でも最終戦に繋げるべく、チームは九州でのレースウィークを迎えた。

10月20日(土)の予選日、前日から強い冷え込みに見舞われていたオートポリスだが、この日も曇天のなかで午前9時からの公式練習を迎えた。D'station Porsche は藤井誠暢がステアリングを握りコースインし、オートポリス初走行のミュラーの習熟も兼ね早めに交代。藤井、そしてミュラーと交代しながらセットアップを進めていった。ただ、終わってみると D'station Porsche は1分45秒217というベストタイムで20番手。チームメンバーの表情は暗い。

曇天で路面温度が上がらない状態での公式練習では、タイヤがグレイニング(ささくれ)する状態となってしまう、グリップを発揮せずすぐに壊れてしまうのだ。ライバルも同様の状況に見舞われていたものの、あまりに厳しいコンディション。「決勝レースは何回ピットに入ればいいのか……？」高根裕一郎エンジニアは頭を抱えた。

しかし午後になるとオートポリスには晴れ間が見えはじめ、路面温度は上昇。これが D'station Porsche には好影響を与える。午後2時30分からの公式予選 Q1 では、追い抜きづらいオートポリスでできる限り前のグリッドを獲得しようと、Q1 のアタッカーに藤井を据え挑んだ。

Q1 では途中、他車のスピンにより赤旗中断となるが、その時点でウォームアップを行っていた藤井にはラッキーな展開となった。タイヤのグリップを残したまま中断明けにアタックした藤井は、クリアラップを取ることに成功。1分44秒229を記録し、10番手で予選 Q2 進出を果たし Q2 に繋ぐ。初のオートポリスを思わせぬ走りを見せていたミュラーも、期待に応え Q2 で1分44秒554を記録し、11番手グリッドを獲得したのだ。午前の状況、そして苦手なコースとしては望外の予選順位だ。

ただ、10月21日(日)の決勝はまだタイヤのライフに不安を残していた。晴天にも恵まれた午後2時からの決勝で、スタートドライバーを務めたのは藤井だが、タイヤをマネージメントしながら、なるべく高いペースを保ちながら走行する、非常に難しい課題が要求されていた。

しかし藤井は期待に応え、レース序盤から無理をせずタイヤを労りながらも、順位を落とさない戦いを展開する。藤井は今まで培ってきた技術

を駆使し、当初予定していたピットインタイムングを大幅に超える周回をこなしていった。途中セーフティカー導入により一度タイヤを冷やすことができたことから、さらに周回は伸びていく。

後半のミュラーのステントをなるべく短くすることが上位進出へのチャンスだったが、藤井はなんと31周もの周回をこなしてピットイン。チームもその頑張りに応え、迅速な作業でミュラーを送り出した。

ピットアウトしたミュラーは、少しずつペースを上げると、タイヤに苦しむライバルたちと混戦になっていった。ただ、D'station Porsche はグリップに余力がある。ここでミュラーは、持ち前のアグレッシブさをみせると、49周目には11番手、さらに52周目には10番手と、ポイント圏内に順位を上げた。

さらにミュラーは55周目には#9ポルシェを、チェッカーが近づく60周目には#10GT-Rをかわし、なんと8番手まで順位を上げ、そのままチェッカーを受けた。得点も厳しいと思われていたレースで、チームとドライバーのもつ力を結集してのポイントゲットを果たしてみせたのだ。

このレースの結果、D'station Porsche のチャンピオンの可能性は無くなってしまったが、あくまでチームは最終戦もてぎでの優勝を狙い、ふたたび総力を結集していく。

PARTNERS



NEXUS GROUP





Satoshi Hoshino Team Principal

オートポリスは非常にタイヤに厳しいサーキットで、レースでもタイヤマネージメントが非常に重要になると思っていました。ただ決勝では藤井選手とスヴェン選手がうまく役割分担をしてくれて、今回の状況を考えれば最高の結果を残せたのではないのでしょうか。ポイントを獲得できるとは思ってもみませんでしたから。次戦のツインリンクもてぎは今季の最終戦ですからね。なんとしても勝って終わりたいと思っています。応援してくださった皆さん、今回もありがとうございました。



Kazuhiro Sasaki General Manager

今回は予選Q1を突破するために柔らかいタイヤを選んだということで、場合によっては2回のピットストップということも考えていました。でもなんとか藤井選手がタイヤをもたせてくれて、レース中盤までピットストップを引っ張ることができたのが大きかったですね。後半を担当したスヴェン選手のペースも良く、最後は8位まで追い上げてくれました。想像以上の結果だったのではないのでしょうか。最終戦のツインリンクもてぎはポルシェにとってもここの一番のチャンス。みんなが喜び顔を見られるよう、チームの力をまとめていきたいですね。



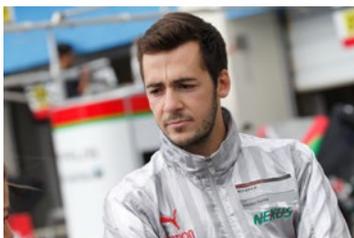
Toshiaki Takeda Team Director

結果から言えばいいレースだったと思います。ポルシェにとっては決して得意なコースではなく、最終戦に向けていいステップになればと、前戦の反省を活かして戦いました。決勝レースでは路温も高く厳しかったですが、ふたりのドライバーのいいところが出せたと思います。マネージメントしてくれた藤井選手、最後にオーバーテイクを決めてくれたスヴェン選手のファイターぶりが活きたのではないのでしょうか。最終戦に向けていい戦いができたので、ドライバーふたりにはすごく感謝しています。



Tomonobu Fujii Driver

今回選んでいたタイヤが柔らかめだったので、2回ストップも覚悟していましたが、レース序盤に我慢したことが功を奏し、周回を増やすことができました。当初目標にしていた周回もこなしたタイミングでセーフティカーも出て、さらに引っ張ることができました。30周もこなせたので、後半スヴェン選手が硬めのタイヤで頑張ってくれ、順位も上げることができました。ポイント獲得が難しいと思っていた中での8位は、大きな意味をもつと思います。少しでも上のランキングで終わりたいですし、テストも速かったので、最後のもてぎはきちんと勝って終わりたいです。



Sven Müller Driver

僕にとっては初めてのオートポリスだったけど、日本の中でも特に難しいコースだったね。最終セクターはブラインドも多くチャレンジングだったし、路面もラフだった。タイヤは厳しかったけど、予選ではQ2に進出できて、ベストが尽くせたと思う。レースでは藤井選手がタイヤをマネージメントしてくれたし、セーフティカー明けで少しタイムロスしたけれど、いい作戦でレースができたと思うよ。8位は今回の状況のなかでは素晴らしい結果だ。次は今年のラストレースだけど、昨年もいい戦いができたし、好結果が残せるはずだ。楽しみにしているよ。

Official Website : <http://dstation-racing.jp>

Facebook : <http://fb.me/DstationRacing>

PARTNERS



NEXUS GROUP

